



山梨大学大学院総合研究部教育学域 金澤 翔一

【今後の展開 商品イメージ応用できる分野】

学校現場で適応可能なICTを用いた運動を促すアプリの開発  
子どもの運動技能向上を促進する教材・教具の開発

## 背景

令和元年度調査から連続して  
小・中学校の男女とも低下している。

体力低下の主な要因

- ①1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合は、増加しているものの、以前の水準には至っていないこと。
- ②肥満である児童生徒の増加。
- ③朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイム増加などの生活習慣の変化。
- ④新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク着用中の激しい運動の自粛。

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(概要)について

小学校学習指導要領解説体育編では・・・

全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。  
▶特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。

文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説体育編

こうした問題を解決するためには・・・学校内（授業・授業外）での運動が鍵になる！

## 研究の柱

### 子どもが運動したくなる仕組みづくり

#### 柱①：運動が苦手な子への指導方法の確立

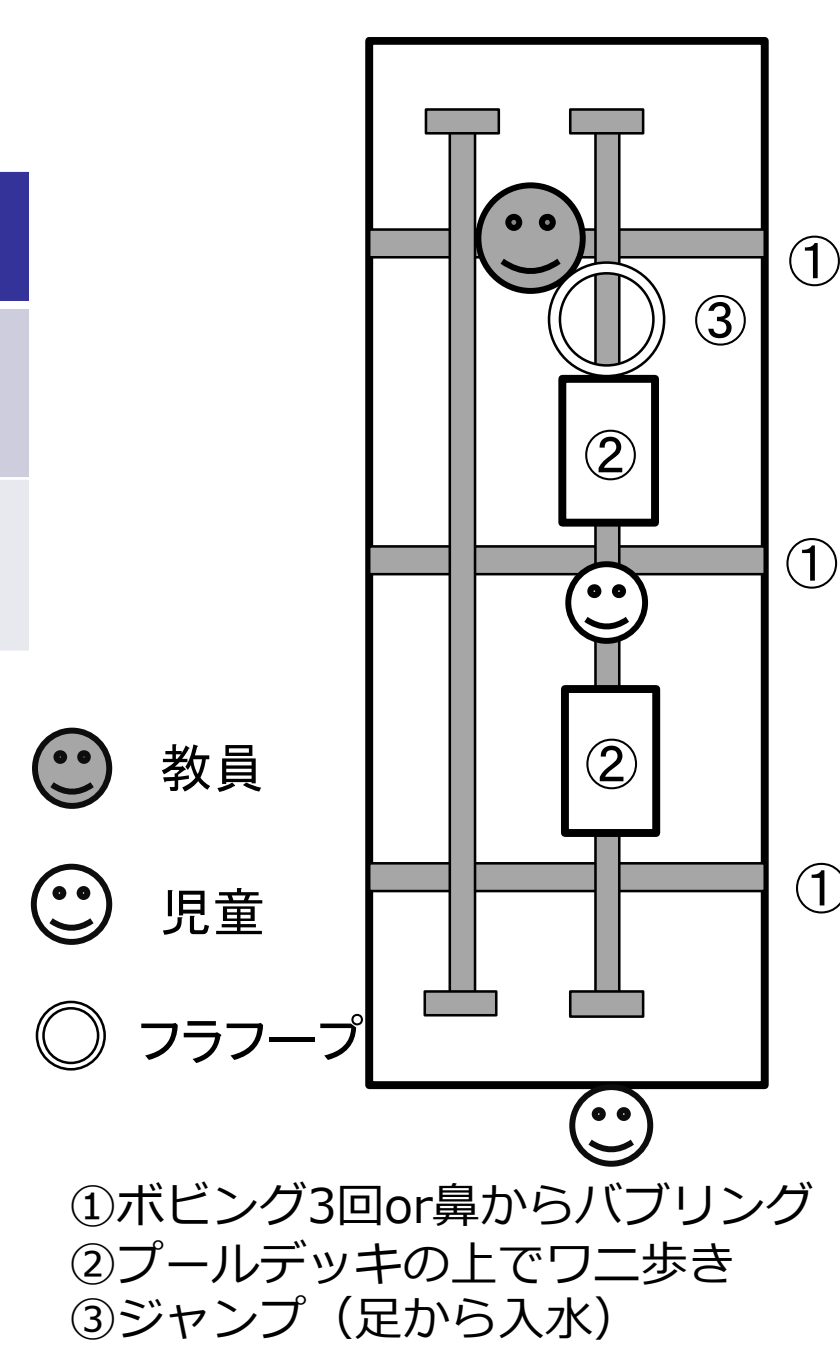
#### 柱②：教師の関わりが児童の身体活動に及ぼす効果

小学校1年生を対象とした  
潜る・ポビングの習得を目的とした学習指導の検討

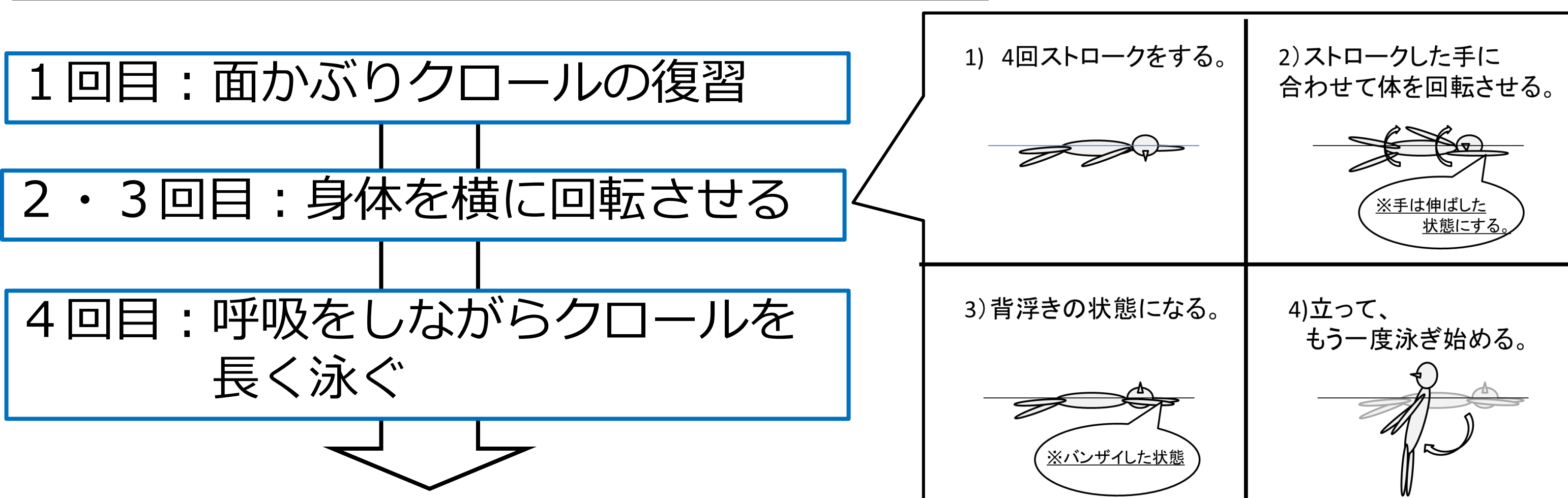
小学校5年生を対象とした記録用紙へのコメントの有無が、  
学校生活中の歩数に及ぼす影響

| 1～3回目 |                       |
|-------|-----------------------|
| 授業前半  | 潜る・ポビングについて段階的に指導する。  |
| 授業後半  | 潜る・ポビングを含むサーキット遊びを行う。 |

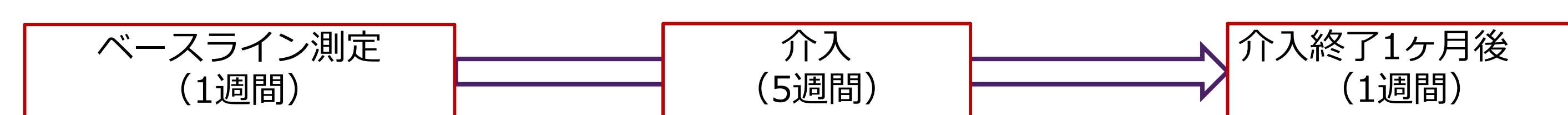
潜る及びポビングの技能習熟が見られた。



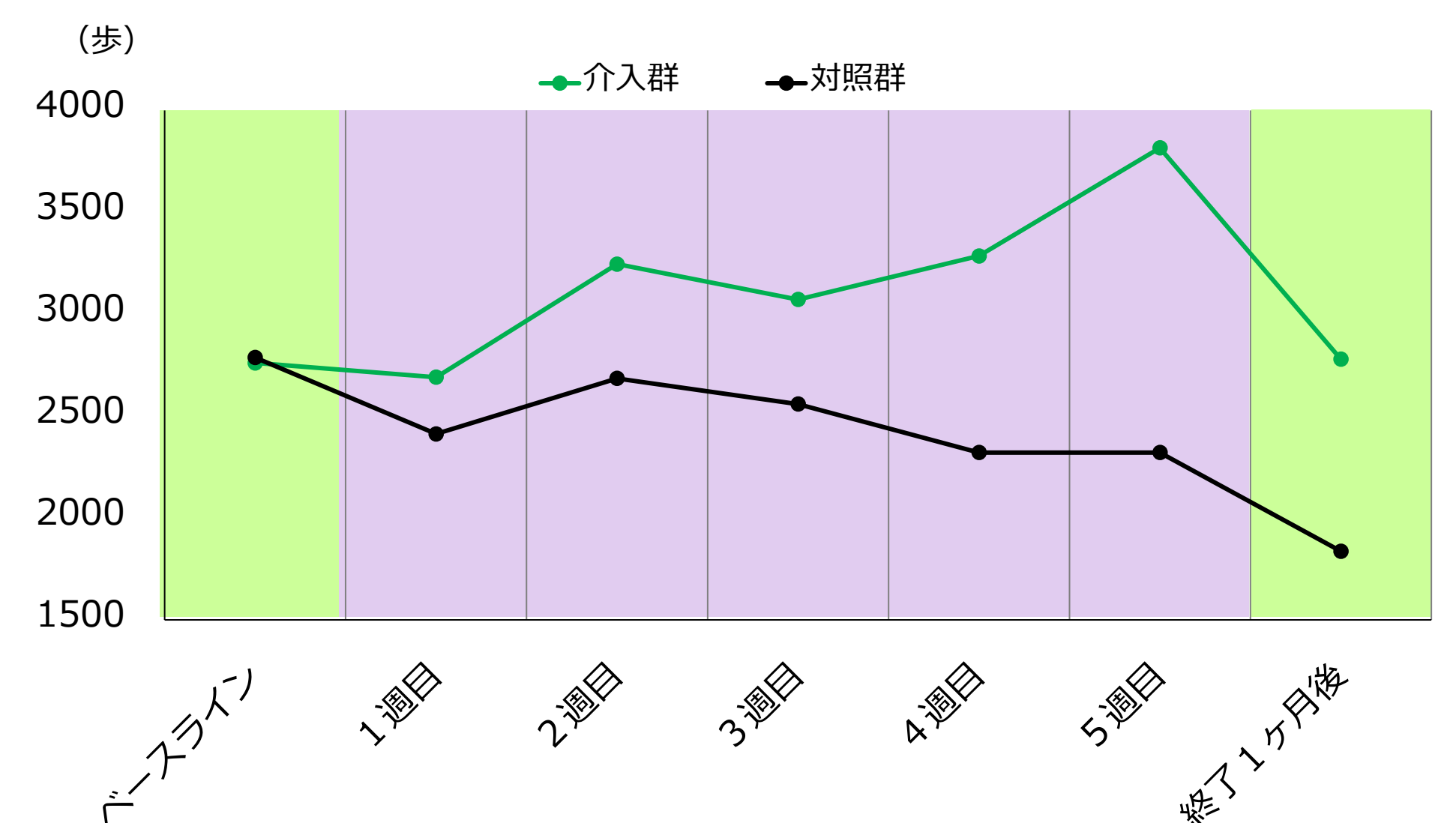
小学校5年生を対象とした  
クロールの習得を目的とした学習指導の検討



クロールの技能習熟が見られた。



- ・歩数計の計測（朝の会～帰りの会）及び歩数の記録の記入
- ・介入群のみ：1週間の歩数について賞賛・励ましの言葉をコメントとして記入



介入群と対照群において**介入4週目に有意傾向**を示し、**介入5週目および計測終了から1ヶ月後において有意に高値**であった。

介入群：**ベースラインと介入2週目の歩数および5週目の歩数において有意な高値**を示したが、**介入1か月後では有意な差はみられなかった。**

対照群：ベースラインと介入期間中の歩数との間に有意な差はみられなかったが、**ベースラインと介入1か月後歩数との間において有意な低値**を示した。

✓歩数を増加させるためには、  
他者からの継続的に働きかけが必要である。